

## 学術委員会

### 1. 年度計画の実施状況

学部としての年度計画は「学習支援環境整備状況を確認し、課題点の改善を継続する」及び「BYODに向けた学部内環境の整備を検討する」であった。このうち、「学習支援環境整備状況を確認し、課題点の改善を継続する」に関しては、以下のことを行なった。

- ・人文図書室のパソコン及びプリンターの利用方法の改定（学生用プリンターを1日15枚まで無料にした）
- ・人文図書室のパソコン及びプリンターの整備
- ・1年生全クラス対象の人文図書室利用案内の実施
- ・学部資料室に保管されている修士論文を閲覧に供する
- ・RENANDAIを利用した卒論データの収集・保管
- ・修士論文要約の収集・学部資料室の資料（遺跡調査報告書など）の整理
- ・中学・高校の教科書の収集
- ・大学入門ゼミ推薦図書の整備（平成29年度分の追加と平成30年度分の人文図書室HP掲載）
- ・人文図書室備付参考図書の整備
- ・CALL教室備付多読用英語図書約800冊の移管受入と整理、目録作成
- ・図書館備付の学生図書の募集及び選定（本年度は前学期に2回（5月と6月）行なった）
- ・就職活動関係資料の積極的受け入れ

また、図書館本館と連携して、以下のことを行なった。

- ・電子ジャーナルのトライアルの積極的推進
- ・図書館本館が行なうガイダンスや文献検索講習への仲介と周知

以上のような取組みにより、学生の学習支援環境の整備・改善に努め、相応の成果を上げることができた。

人文図書室の運営体制について、前年度末で担当助手1名が退職したことに伴い、業務に支障が生じないように新たな業務遂行の体制が整備されたが、特に学内ワークスタディ制度を利用して、図書整理やカウンター業務の補助等に学生の力が借りられるようになったことは非常に有効であった。

「BYODに向けた学部内環境の整備を検討する」に関しては、いまだ具体的な検討段階に入るまでにいたっておらず、次年度の委員会に委ねざるを得ない。

### 2. その他の活動報告

#### (1) 学部紀要の発行

学部紀要は、学部名称の変更により領域別に『茨城大学人文社会科学部 人文コミュニ

ケーション学論集』『茨城大学人文社会科学部 社会科学論集』と改称された。ともに年 2 回（9 月、3 月）の刊行を順調に行なった。前年度委員会の検討結果に従い、紙媒体での刊行となっている。また、投稿・執筆規定について、検討の上、一部、改正した。なお、今後の発行形態についての検討も行ったが、電子媒体化等の明確な結論には至らず、引き続き検討することになった。

## （2）院生論集の発行

院生の研究発表の機会充実のため、院生論集『茨城大学人文科学研究』を刊行してきたが、大学院名称の変更により『茨城大学大学院人文社会科学研究科院生論集』と改称し、その第 1 号を 12 月に刊行した。論文 2 本及び平成 28 年度修了者全員の修士論文要約を掲載した。なお、今年度から在学生の投稿も可能になったが、今回在学生の投稿はなかった。

## （3）新任教員研究発表会の開催

12 月 20 日（水）、新任教員研究発表会を開催した。3 名の新任教員が研究発表を行なった。来聴者 28 名（教員 22 名、学生 8 名）。

## （4）科研費新規採択者の申請書の保管

科研費への積極的応募を図るため、平成 29 年度の新規採択者に対し、申請書の人文図書室での保管を依頼した。2 名の教員から了承を得て申請書が保管されることになった。

## （5）共同研究ユニットの公募と審査

共同研究ユニットとは、学部等（研究科を含む）の組織的な研究及び教育改善活動を発展させるため、科研費や外部資金への応募を条件として、学部長が認めて支援する組織であり、3 名以上のメンバーから構成され、本学部等を活動拠点として共同研究を推進する研究組織である。学術委員会が 6 月に募集を行ない選考の上、学部長に推薦した。

## （6）サバティカル制度の利用者の選任に関する作業

平成 30 年度サバティカル制度の利用者の選任に関する作業を行った。

平成 29 年度学術委員会委員長：堀口育男